

1. ①幹細胞産業応用促進基盤技術開発

平成21年度予算額：10億円
平成21年度一次補正予算額：5.0億円
平成20年度1次補正：10億円

事業の目的

- iPS細胞は、2007年11月に京都大学の山中教授により樹立の成功が公表された画期的な細胞である。病気の原因の解明や、有効で安全な医薬品の開発、再生医療等への応用が期待されている。
- 現在、iPS細胞に関する研究は、国際的な競争が激化している。また、iPS細胞を民間企業が活用するまでには、様々な解決すべき課題がある。このため、本事業では、産業応用に不可欠な基盤技術の開発や、iPS細胞に関連した産業応用事例創出の促進を行う。

事業の内容

- 具体的には、以下の研究開発を行う。
 - ①安全かつ効率的なiPS細胞作製のための基盤技術の開発
 - ②細胞の選別・評価技術の開発
様々な細胞の中から創薬等産業応用に活用可能な細胞のみを選別し評価する技術の開発
 - ③ES、iPS細胞を用いた薬の効きめ、副作用の事前評価システムの開発
ES細胞からの肝細胞、神経細胞への分化誘導技術の開発及びiPS細胞を用いた医薬品の心臓に対する毒性を評価するシステムの開発を行う。

実施体制



事業イメージ

